

**製品名:** パキシリン (リン酸化 Tyr31) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号:** APRab05216

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	68kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PXN
別名	PXN; Paxillin
遺伝子 ID	5829.0
SwissProt ID	P49023
免疫原	抗血清は、ヒトパキシリンの Tyr31 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 15-64

**背景**

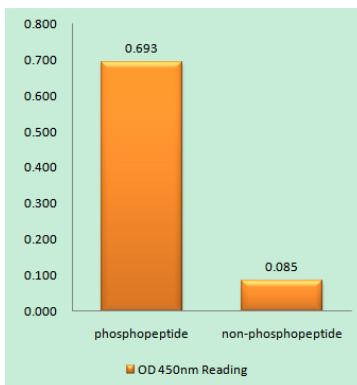
この遺伝子は、細胞外マトリックスへの細胞接着部位 (接着斑) におけるアクチン膜への接着に関与する細胞骨格タンパク質をコー

ドしています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが報告されています。これらのアイソフォームはそれぞれ異なる発現パターンを示し、生化学的特性だけでなく生理学的特性も異なります (PMID:9054445)。 [RefSeq 提供、2011年8月]機能:細胞外マトリックスへの細胞接着部位 (接着斑) におけるアクチン膜結合に関与する細胞骨格タンパク質。、PTM:インテグリンを介した細胞接着、胚発生、線維芽細胞の形質転換、およびミトゲンによる細胞刺激後に、チロシン残基がリン酸化される。、類似性:パキシリンファミリーに属する。、類似性:3つの LIM 亜鉛結合ドメインを含む。、類似性:4つの LIM 亜鉛結合ドメインを含む。、サブユニット:in vitro でビンキュリンおよび c-SRC の SH3 ドメインに結合し、チロシンリン酸化されると V-CRK の SH2 ドメインにも結合する。アイソフォーム  $\beta$  は接着斑キナーゼに結合するが、ビンキュリンには弱く結合する。アイソフォーム  $\gamma$  はビンキュリンに結合するが、接着斑キナーゼとは弱く結合する。GIT1、NUDT16L1/SDOS、PARVA、TGFB1I1 と相互作用する。細胞質複合体の構成要素であり、GIT1、ARHGEF6、PAK1 も含まれる (相同性による)。ASAP2 に結合する。リン酸化されていない ITGA4 と相互作用する。RNF5 と相互作用する。

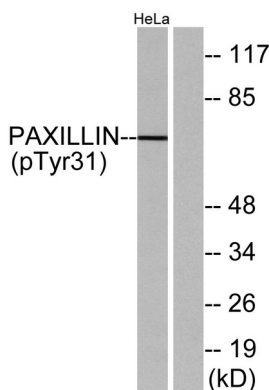
## 研究分野

ケモカイン、VEGF、接着斑、白血球の内皮透過移動、アクチンと細胞骨格の調節、

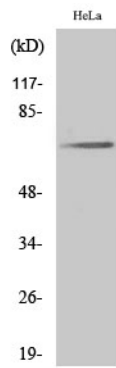
## 画像データ



パキシリン (リン酸化 Tyr31) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



TNF 200 ng/ml 2' で処理した HeLa 細胞のライセートを、パキシリン (リン酸化 Tyr31) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



ホスホパキシリン (Y31) ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた各種細胞のウエスタンブロット解析